

イカ類漁海況情報収集・提供事業

清藤 真樹

目 的

主にスルメイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を漁海況情報として、漁業関係者に提供し、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1 学習会の開催

前漁期の状況、漁期前の情報を提供するため、漁業者を対象とした学習会を開催した。

2 漁獲動向調査

日本海主要港（小泊、下前、鯨ヶ沢、深浦）、津軽海峡主要港（大畑）、太平洋主要港（白糠、八戸）における月別漁獲量調査を行い、漁獲状況の基礎資料とする。

結 果

1 学習会の開催

小型漁船を対象とした学習会は平成24年5月8日に野牛漁協、5月29日に東通村（連合研究会）、6月6日に泊漁協で行い、前年の漁況、（独）水研センターの調査結果などの他、本県の漁況と資源についての説明を行った。また、中型イカ釣り漁船を対象とした学習会は、4月26日に八戸市で行い、操業船の漁獲結果からの前漁期の状況、資源の状況等の説明を行った。

2 漁獲動向調査

5月から1月の近海スルメイカ漁獲量は、日本海は1,882トン（前年比137.9%）、津軽海峡は965トン（同64.9%）、太平洋は6,037トン（同75.4%）、合計8,884トン（同81.8%）であった。

本県近海は8月～9月にかけて2010年並みの高水温となり太平洋、津軽海峡は漁獲量が減少する影響を受けたが、日本海では同時期に秋田県～青森県沿岸に冷水塊が入り込んで高水温の影響を軽減し漁獲が伸びた（図1）。

また、八戸港に水揚げされた船凍スルメイカは14,180トン（同92.1%）であった。同期間の1隻当たりの水揚量は78.0トン/隻となり、前年の75.4トン/隻を上回ったが、延水揚隻数は173隻（2011年は延隻数201隻）と減少した。

これは、10月以降天候不順が続き操業日数が少なかったためと考えられた（図2）。

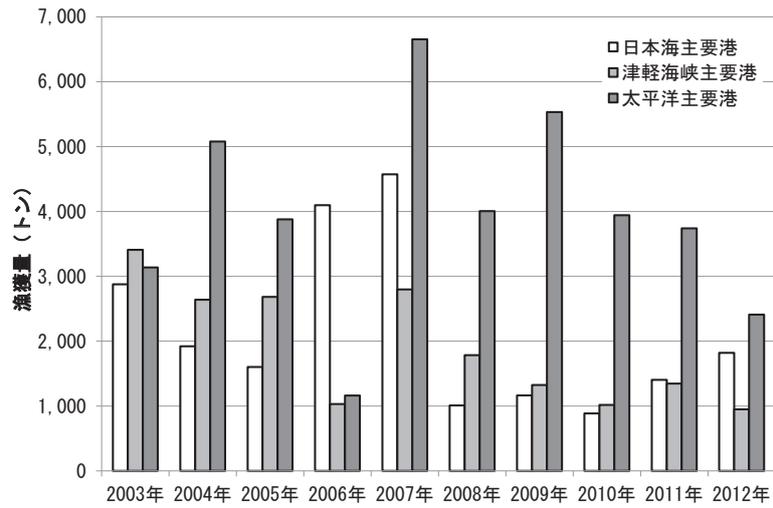


図1 生鮮スルメイカ漁獲量の推移

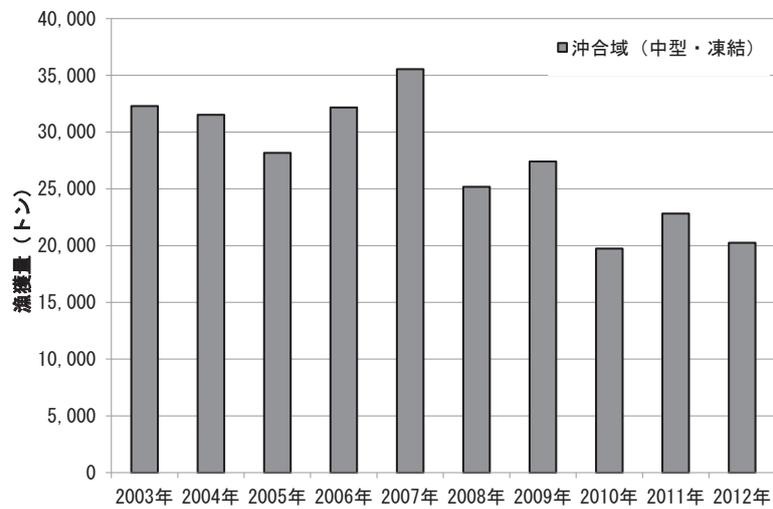


図2 船凍スルメイカ漁獲量の推移